

No.210
2023.7.20

郷土

庄原コミュニティセンター報

令和5年5月31日現在

世帯数	2,714戸
男性	3,623人
女性	3,837人
合計	7,460人

発行／庄原コミュニティセンター
出雲市柴川町庄原3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

つながる庄原 笑顔の未来
いかそう 人を 歴史を 資源を

6/18
(日)

高瀬山登山

主催 健康・スポーツ部 庄原コミセン自主企画事業
共催 庄原小学校 PTA 保健体育部

～自然豊かなみんなが集える山になれ～

講師：佐藤仁志様(日本野鳥の会副会長)
尼子十旗顕彰会城跡ガイド委員の皆様



高瀬山登山口には、28名の小学生とその保護者の方々、庄原地域内外からの参加者とスタッフの、総勢82名が集合しました。庄原小学校PTA保健体育部さんとの共催事業で実施した高瀬山登山。3つの班に分かれて登山開始です。

道中の要所では顕彰会ボランティアガイドの皆様による詳しい説明がありました。曲輪(くるわ)と言われる開けた場所に到着すると、お楽しみの巣箱かけと自然工作。「自分で取り付けたい。」と、不安定な脚立に登って巣箱をかける子どももいました。自分のネームプレートが付いた巣箱を取り付けうれしそうに眺めていました。

自然工作では、笹の葉で作る小物入れや、雁皮という紙幣や高級和紙の原料にもなる樹皮を使った編みひもなど、めずらしい工作を楽しみました。また頂上は梅雨とは思えない好天で景色も最高でした。

鳥のお話や、自然物を使った楽しい工作を教えていただいた佐藤仁志さん。登山の案内と分かりやすい歴史の話をしてくださった、宍道年弘代表他5名の城跡ガイドの皆様ありがとうございました。



また、今年の事業では、尼子十旗顕彰会事務局局長である勝部哲さんのご提案で、巣箱かけの活動を行いました。事前の巣箱の製作や運搬など大変ご尽力いただきました。更に当日巣箱かけに必要な脚立や梯子を運んでくださった小学校PTAの皆様やボランティアの皆様方等多くの方に支えていただき、賑やかな楽しい活動になりました。本当にありがとうございました。



参加者の感想 (一部抜粋)

- 自分の巣箱が作れてうれしかった。自然や歴史の話など興味深い話をいろいろ聞くことができました。また参加したいです。(小学生)
- 一番上まで行ったらすごくうれしくて、ゴールしたらこんなにいい気持ちになるなんて知りませんでした。次はもっと高いところまで行きたいです。(小学生)
- 鳥の巣箱づくりが楽しかった。巣箱に鳥がいるか、また登ってみたい。(小学生)
- 巣箱かけや自然工作はいつもの登山では経験できない体験で、子どもも喜んでいてよかった。自然と歴史に触れながら良い運動になった。
- 子どもと楽しい時間を過ごすことができました。巣箱をまた来年見に行きたいねと話しています。
- 高瀬山の歴史を丁寧に説明してくださり勉強になった。頂上の景色は最高でした。

6/2
(金)

ふれあい交流部

笹巻き作り 自主企画事業

出雲地方に古くから伝わる笹巻きは、月遅れの端午の節句に子どもたちの無事な成長を願って作られてきた郷土食です。今年も荘原保育園・東部保育園の子どもたちと一緒に笹巻きを作りました。朝からテンション高めの子どもたちに負けないように「ふれあい交流部」のみなさん、地域の子どものためなら…と手伝ってくださったみなさんのおかげで、美味しい笹巻きが完成しました。

笹巻きを作る家庭が減り、笹巻きを食べたことがない、初めて食べたという子どもたちも多かったことでしょう。わずかな時間でしたが、笹巻き作りを通して出雲地方の食文化に触れ、世代を超えた交流ができました。



さつまいも・大豆畑 自主企画事業

こども倶楽部

今年も始動しました!
こども倶楽部の畑作り!

今年は、例年通りのさつまいも、大豆に加え、試験的に落花生も育ててみることに。畑を通して、地域の子どもたちに、作物を育てる楽しさや難しさ、食べる喜びを伝えていけたらいいと願う「こども倶楽部」です。

5/9

ヒトデまき

なぜヒトデ?と不思議に思われた方も多いでしょう。ヒトデには、害獣・害虫の忌避効果があるそうです。無農薬・有機栽培にこだわっているこども倶楽部は、畑に防虫剤をまいていないため、昨年、大発生したコガネムシの幼虫にさつまいもをかじられてしまったのです。安全な方法で虫を防ぐため、近頃注目されているヒトデを使ってみることにしました。



これがヒトデ?

5/17

畝立て・マルチ張り

翌週の前橋えに備えて、荘原幼稚園・東部保育園の先生と一緒に畝立てとマルチ張りをしました。先生方との連携もばっちり!準備万端です。



せーの!

5/24

さつまいも苗植え

荘原幼稚園・東部保育園の子どもたちと、5月24日にさつまいもの苗植えをしました。子どもたちも楽しみながら取り組んでくれ、上手に植えることが出来ました。「大きくなーれ、美味しくなーれ」と声をかけてくれたので、秋には美味しいさつまいもが実ることでしょう。(今年はコガネムシさんに侵襲されませんように…) お散歩の途中に、子どもたちが水やりをしてくれているので、ぐんぐん大きく育っていますよ。

真剣な表情です



大きくなーれ!



6/1

大豆種まき

等間隔に、大豆を3粒ずつ植えました。この1粒1粒から芽が出て、例年沢山の大豆を実らせてくれます。来年、子どもたちと一緒にこの大豆で味噌作りをします。子どもたちにも、大豆が大きくなっていくさまを見守ってほしいものです。



6/10
(土)

放課後こども教室

子どもニュースポーツクラブ始まりました

スポーツ指導の専門講師さんと「スポーツ吹き矢教室」のサポートスタッフさんに教わりながら、楽しく元気に健康的にニュースポーツを楽しむ教室です。今年度は人数も増えて総勢10名でスタートです。

初回は、「スポーツ吹き矢」に挑戦しました。初めて参加する5名の子どもたちは、筒の持ち方や矢の入れ方、姿勢や息の整え方や吹き方など基本を学びながらチャレンジです。継続参加の子どもは、慣れた手つきで的に「スパッ!」という音と共に気持ちよく当てていきます。「当たった!」「最高点が出た!」と、一言一憂しながら楽しみました。

月一回の計画で、様々なスポーツに取り組みます。追加募集も受け付けています。たくさんの参加をお待ちしています。希望者は庄原コミセン(電話72-4600)まで連絡下さい。



6/17
(土)

子どもお花クラブ(放課後子ども教室)

21名でスタート 花と対話して感性を磨く

「知らない花の名前をたくさん覚えたよ。」「花はいいよ。会話のきっかけになるよ。」「家庭内に花を生ける環境ができて新鮮ですよ。」「口コミで広まったのでしょうか? 当初募集人数15名を大きく超える30名の参加申し込みがありました。指導者の方に無理を聞いていただき今年は過去最高の21名の児童で活動しています。

講師の方の話を聞きながら、選んだ花のお気に入りの部分がよく見えるように配置したり、友達の見方や考え方を聞いたりしながら取り組みます。



高学年の児童は継続して取り組んできた子どもばかりなので、準備や片付けの時には講師の先生を手伝い、新しく加入した子どもや低学年の子どもたちの水を汲んであげたり、アドバイスをしたりと先輩らしい姿が見られました。

出来上がった作品は前に並べて鑑賞会。花や花器を選んだ理由や、好きなところを子どもたちに発表させながら進んでいきます。最後に一人ひとり「お花ノート」にその日の活動の記録を残しています。花の生け方、花器の選び方などの技だけでなく、花や花器と対話する心も磨いています。

10月14、15日に開催予定の文化祭の作品展示と、年度末に開催されるミニ展覧会で、地域のみなさんに作品を見てもらえるようがんばって取り組んでいます。楽しみにしてください。

6/4
(日)

荘原いいところクイズラリー 自主企画事業

荒神谷史跡公園で「荘原いいところクイズラリー」を行いました。荘原のいいところを見つけ、色々な視点から町の良さに気付き、誇りをもって未来に向かって歩んでいってほしいという願いをもち、開催をしました。

当日までに、荘原小学校5・6年生の有志が荒神谷史跡公園や荘原小学校、弥生の舞、バラや斐川の花、湯の川温泉、高瀬山など荘原にまつわるクイズを全部で50問考えてくれました。また、こども

もスタッフが事前打ち合わせをして、クイズの選考やクイズパネルの作成、当日の役割分担等を決め、自分たちで進めていくクイズラリーとなるようにしていききました。

当日は、20問のクイズラリーを好きな場所から解答し、スタッフに丸付けをしてもらい、お菓子や綿菓子をもらいました。クイズの中には、荘原の良さに気付くクイズの他、「スタッフとじゃんけんをする」「このキャラクターを探せ！白い帽子のスタッフにヒントがあります」など、人と関わる要素も取り入れました。こどもスタッフとして小学生17名、斐川東中学生6名が参加し、来場者とスタッフどちらにとっても楽しい時間となりました。来場者は150名近くで、親子連れや小学生など、いろいろな世代の方にお越しいただきました。

こどもスタッフの振り返りでは、「荘原ってこんなに人が参加してくれていい町だと思った」「地域の人と普段ふれあうことが少なかったけど、お客さんとコミュニケーションがとれて楽しかった」「地域について知らないことが多かったけど、今日のクイズで分かった」等思いを伝え合いました。自分の住む町の良さに気付き、「いいところだな」と誇りを持ち、未来に向かって、自分のやりたいことに向かって行動していってほしいと思います。

6/14
(水)

誇りを繋ぐ

専門部研修報告

地域の誇りとしてよみがえった月山富田城跡

雨の中27名の私たちにとって城跡に立つ多くの「のぼり旗」の迎えはまさにタイムスリップし歴史を感じる瞬間でした。

全国屈指の中世城郭、富田城跡が町民から史実を活かした歴史遺産として早期の活用が求められ、町民も参加する組織で町、市の数年に亘る大規模事業として整備され、草ぼうぼうだった史跡が地元の「誇り」としてよみがえりました。現在、史跡公園として地元の人をはじめとして散策に、それ以外の人は歴史のロマンや、検証のために年間3万人が訪れるとのことでした。



人としての誇りを繋ぐ加納美術館

午後は「加納美術館」の館長である千葉潮さんから「美術館が果たす地域での役割」の演題で研修を受けました。美術館を中心に左右に公民館とレストラン「やまさや」があり、数百人から数人までの地域の交流活動の中心的な役割を担っています。

美術館の展示方針は加納亮雲を通して「平和」活動の展示、地元作家の作品展示と美術史の調査、所蔵品の展示になっています。

「赦し難きを赦す」これは第二次世界大戦で、妻や、3人の子ども、そのほか5人の家族を日本人に殺された



当時のフィリピン大統領キリノ氏がB級、C級戦犯に特赦を与えるときの言葉です。将来「友となるかもしれない国民に対し私からの憎悪を(自国民に)受け継がせない」ためにも私は「赦し難きを赦す」。この間、莞菴(辰夫)氏は戦犯の助命嘆願書を何百通も大統領に送り続けました。キリノ大統領の赦免は大統領からの「日本人に平和をどう築くのかの課題を与えた」と捉え以降の活動の柱の一つとして確立していきます。

研修を終えて ～何どう繋ぐのか～

歴史における人の営みの何を繋ぐのか。地域の何を繋ぐのか。現在住んでいる人たちの何を繋ぐのか。どう繋ぐのか。問われる現在です。

終わりに、雨の中実際に城跡により、わかりやすい説明に務めてくれた文化財課の大家充さんや、わかりやすい講習、館内の作品説明に一緒に回っていただいた千葉 潮さんに感謝いたします。

6/3
(土)

R5初夏の行楽&歴史勉強会

「やまももの会」

女性クラブ
「やまももの会」

今年度は、最強の城に選ばれた米子城と植田正治写真美術館、テラス・ザ・ダイセンの計画を立て、会員の皆様と歴史を語っていただく荒神谷歴史館企画員の宍道年弘さんとともに出かけました。晴天に恵まれバスの中から宍道さんの高瀬城址「尼子十旗のお話、車窓を見ながらの富田城のお話と戦国時代に思いを馳せながら米子城へと向かいました。

米子城ではたくさんの登山者で賑わっていました。現在城は失われておりませんが、石垣などは往時の姿をよくとどめています。頂上からは秀峰大山、日本海、中海などが一望でき、その景色と中海に臨む鉄壁の城を十分に感じることができました。

植田正治写真美術館は白を基調とした神秘的な建物と館内に入るとモノクロの写真に心を奪われるようでした。各展示棟の間から望む水面には逆さ大山を見ることができました。

隣にあるテラス・ザ・ダイセンで広大に広がる大山のふもとの景色を見ながらお買い物できました。一日中すてきな空間に包まれたような小旅行でした。コロナ禍でなかなか県外に出ることができませんでしたが、お隣の鳥取県の雄大な大山を満喫できました。



5/13
(土)

5/20
(土)

美しいバラに誘われて ～喫茶やまももオープンカフェ

「やまももの会」
女性クラブ



「斐川バラのオープンガーデン」に合わせて、昨年に引き続き「喫茶やまももオープンカフェ」を開催しました。

地域のみなさんはもちろん、バラのオープンガーデンにご来場のみなさんにもおおぜいお寄りいただき、大変にぎやかなカフェになりました。美しいバラの甘い香りに包まれ、美味しいコーヒーを飲みながら楽しいおしゃべりもはずんでいました。

ささやかながらでも地域を元気にしたい…私たちの願いがまたひとつ叶った活動になりました。

5/24
(水)

ゴキブリ対策は おまかせください!



今年もいや〜なゴキブリが出てくる前に「ゴキブリ団子」を作りました。

新玉ねぎやホウ酸などを材料に作る「やまももの会特製・ゴキブリ団子」は庄原地区にとどまらず、「あの「ゴキブリ団子」は効くらしい」と密かに話題になっているようで、飛ぶように売られていました。



6/27
(火)

もう一度見直そう! ごみ分別

～楽しく、分かりやすい講習会でした

「やまももの会」社会文化部

「かえる倶楽部」の山本富子さんにきていただき、久しぶりにごみ分別講習会を実施しました。

ごみの分別についてゲーム形式で楽しく、わかりやすく学ぶことができました。



5/25
(木)

「Showバラの会」 視察研修「庄原さとやまオープンガーデン」

しょう ばら
Showバラの会

この日、広島県庄原市の「庄原さとやまオープンガーデン」での視察研修を行いました。「庄原さとやまオープンガーデン」は、広島県庄原市内の個人庭や公共施設など約40庭が期間限定で公開されるもので、美しい景観を楽しむと共に、「花による元気なまちづくり」を志す人たちの想いに触れられる取り組みです。今回の研修は、その中でもバラに特化した庭を巡り、その庭を手掛けたガーデナーの皆さんのお話も伺うことが出来ました。それぞれに個性あふれる素敵な庭を堪能させていただき、想いに触れ、とても良い刺激を受けることが出来ました。これからも、バラを通して、地域の活性化に繋げていきたいとの想いを新たにしました。



庭主さんを含んで記念写真



手入れの行き届いた庭にうっとり。香りにも癒されます。

7/3
(月)

花がら摘み



今年も大好評だった5月の「斐川バラのオープンガーデン」。この日、咲き終えた花の花がら摘みを行いました。来る10月の文化祭に備えて、次に咲く花を良い状態で咲かせるため、ぱっさりと枝をカットして整えました。

暑い中参加してくださった「Showバラの会」の皆さん、ありがとうございました。



福島博さんによる丁寧な解説。皆さん真剣に聞き入っています。

5/18
(木)

地域の子どもたちのために

庄原地区青少年育成協議会



今年度の青少年育成協議会の総会が開催されました。自治会単位の「子ども会助成事業」をはじめとした、地域の子どもたちのための活動計画案や予算案が承認されました。また、小学校、中学校の校長先生より児童生徒の現状についてのお話や、斐川交番所長からの青少年犯罪の実態等についてお話がありました。11月25日(土)には、内容をリニューアルした地域三世代交流事業を計画しています。

5/30
(火)

令和5年度総会開催

5月30日、環境保全連合会庄原支部の総会が開催され、庄原地区の環境委員の方たち53名の参加がありました。事業計画案および予算案はすべて承認され、本年度の活動が始動しました。コロナ禍で、令和2年～4年は書面表決となっていたため、3年ぶりの開催となりました。自治会での美化活動について等、質疑応答の時間が設けられ、有意義な時間となりました。



5/9
(火)5/18
(木)5/26
(金)

昔懐かしい莊原の話を聞いて 語って元気になりました

ふれあいサロン
おいでませの会

5月の「おいでませの会」は、莊原在住の保科晴夫さんに昔懐かしい莊原の話をしていただきました。

今年度で3回目になる保科さんのお話ですが、地域の歴史について長い年月をかけ細かく調べ、参加のみなさんに熱く語られる姿に保科さんの情熱を感じることができました。

昔の川の流れや街道などについて、今も調べておられる保科さん。「おいでませの会」の保科さんの講座は、これからも続きます。

1 班
6/13
(火)2 班
6/15
(木)3 班
6/23
(金)

みんなの願い、天まで届け!



七夕には早い6月ですが、莊原小1年生児童さんと「七夕交流」をして、にぎやかに楽しい時間を過ごしました。

莊原小開校150周年記念などで披露される「ひかわっはっはー」の歌に合わせた元気なダンスのあと、「たなばたさま」の歌をみんなで歌い、その後テーブルごとに分かれて自己紹介をしました。

後半は七夕飾りを参加者全員で作りました。会員さんやボランティアさんに教えてもらいながら一生懸命に短冊に文字を書く子どもたち。おばあちゃんに折り紙を教えてあげている女の子の姿もありました。短い時間でしたが、年代を超えての交流ができました。

みんなの願いが一つでも多く叶いますように…。

6/11
(日)

宍道湖中海一斉清掃

6月の市民一斉クリーンデーに合わせ、莊原地区の環境委員の皆さん(7自治会の方が参加)9名と地元の莊原蛸会の皆さん10名、莊原支部役員4名、計23名でゴミ拾い活動を行いました。新田下の排水機場からゴミを拾っていくと、大小様々なゴミがポイ捨てされていました。そして目立ったのが、漂着ゴミ。地元の漁師さんが仰るには、「上流は一見綺麗に見えるが、そこにあったゴミは全て下流に流れ着く。それによって下流地域の人たちが大きな被害を受けることをわかってほしい。」との事。実際に網が破れるなど、大変な思いをなさっているのだとか。住む地域に関わらず、一人ひとりがポイ捨てゴミをなくしていくことが大切です。

終了後には、原秀範会長から、参加特典として宍道湖産の「しじみ」を頂戴しました! この取り組みに参加して、宍道湖の周りを綺麗にしてくださった皆さん、どうもありがとうございました。来年は、もっと沢山の自治会からの参加を期待しています。



出雲市環境保全連合会莊原支部

5/29
(月)

荘原地区人権同和教育推進協議会

総会・研修会開催されました

荘原コミュニティセンター集会室にて、荘原地区人権同和教育推進協議会総会・研修会が開催されました。

- 総会: R4年度事業・決算報告、R5年度事業計画・予算について。すべて了承されました。
- 研修会: 今年度の荘原地区人権・同和教育推進協議会の委員研修会は、山陰中央新報に掲載された「部落差別 耐えた母が誇り〜60歳から字を覚えた詩人〜」で取り上げられた井上ハツミさんの長女・井上曉永(たかえ)さんをお招きして、娘である曉永さんを通して母・井上ハツミさんの思いを、お話しいただきました。

母・ハツミさんは、被差別部落に生まれたことでいじめの差別を受け、教育の機会を失ったことにより文字を奪われ、60歳を過ぎて識字学級に通って文字を習得しこれまで受けた差別や自分の思いを表現。その作品は、部落解放文学賞に数々入選しています。

▶不当な差別により極貧生活を強いられ、学校にも通う事ができず過ごしたこと▶心温まるお父さんや近所の人とのやり取り、学校に通えなかったために字が分からず不便を通り越し、怒りさえ湧いてきたこと▶識字学級に通うようになり、字が分かるという事はいかに生活にはなくてはならないものだという事が改めて実感できたこと、など、お母さんの思いを語っていただきました。

学校に通い勉強することが、人間らしい生活を送り知識を得ることが、いかにありがたく大事な事が感謝しつつ、あってはならない差別について改めて考えさせられました。



長い間ありがとうございました

斐川町交通指導員・錦織敦己さんに 出雲市長から感謝状

平成17年度から斐川町交通指導員として長きにわたり交通安全指導にご尽力されたとして出雲市長から感謝状が贈られました。おめでとうございます。(令和5年1月4日)



(錦織敦己さんは、荘原地区交通安全対策協議会会長、出雲市交通安全協会荘原支部長として、長年にわたり地域の交通安全にご尽力されました。本当にありがとうございました。なお、令和4年度末をもってこれらの役職をご勇退されました。)



写真でたどる荘原 Vol.7 あの日あの時〜そして現在

(経過)昭和9年(1934)9月21日新川の氾濫。洪水により「前川橋(現・新橋)」が流出。昭和11年(1936)に「前川橋」に代わって、新たに「新橋」が竣工。

写真の欄干はその時に石造りで新設された。
(昭和11年11月7日、現在の国会講堂が完成、落成式挙行。「新橋」欄干は講堂の雲間を照らすとのこと)

その写真(欄干)には、「昭和59年9月」に刻銘されているが、この年(1984)に、新橋が改築されて当時の欄干表面を化粧直しして、そのまま現在に至る。

現在の写真は、「新橋」から町部を望む。なお、「新橋」南詰東広場には、「新橋川改修記念碑」(昭和60年11月建立)がひっそりと佇む。



▲昭和9年(1934)9月21日新川の氾濫。洪水により「前川橋(現・新橋)」が流出



▲昭和11年(1936)に「前川橋」に代わって、新たに「新橋」が竣工。



◀昭和59年9月に「しんばし」と刻銘された。

荘原コミュニティセンター「まちづくり部」では、引き続き皆様から懐かしい荘原の写真などの歴史資料を募集しています。ご自宅に懐かしい写真などありましたら、荘原コミュニティセンターまでご持参ください。

7/4
(火)

荘原コミセン 自衛消防訓練の実施

荘原コミセンを利用される方の安全確保と職員のスムーズな避難誘導ができることを目的に、定期的に避難訓練を行っています。

この日、「実情」から出火したと想定し、利用者の方と共に消防訓練を行いました。避難後には、消火器の正しい方を講習し、消火訓練を行いました。消火器を使ったことがある方でも、久しぶりに使うと操作方法を忘れていたことがあり、改めて定期訓練の大切さに気付かされました。



お礼

「寿昌クラブ荘和会」様よりタオルの寄贈がありました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

寿昌クラブ 荘和会 様



寄附返し 金一封
小松原清志 様(前原自治会)
嘉本貴広 様(喜多自治会)
田部善徳 様(八雲東自治会)
有藤直紀 様(南本町自治会)
高橋 浩 様(中瀬自治会)
皆様からお寄せいただきましたお礼は、荘原地区内の社会福祉事業に活用させていただきます。誠にありがとうございます。この寄付は、荘原「コミュニティセンター」で受け付けております。

ご寄付御礼